

木造耐震ニュース（H28.9.10号）

地震に強い住まいづくりフェア「街角セミナー」開催 報告

平成28年9月10日(土)

阪神大震災を教訓にすべく 10日11日と、地下街・ゼスト御池通路広場にて「地震に強い住まいづくりフェア」が行われました。

京都市耐震ネットワーク委員会のメンバーである我々事務所協会木造耐震委員会として、10日、2:00~3:00「街角セミナー」として 当協会の瀬戸専務理事が熊本地震の調査報告をもとにしてパネラーとして参加いたしました。

又、同時に耐震相談会が行われ、木造耐震委員会委員の武村氏、久田氏、が相談員として熱心に相談に 응じられていました。

その他、左官組合、瓦組合、板金組合、など 実施体験コーナーを開催されました。

文責 専務理事 瀬戸一海

住まいの耐震改修大切

中京 セミナーや実演で再確認

住宅の耐震性向上をPRする催し「地震に強い！すまいづくりフェア」が10日、京都市中京区の地下街「ゼスト御池」で始まった。建築士のセミナーや板金による屋根ふきの実演を通じ、市民が耐震

住宅の耐震性向上を改修の大切さを再確認した。建築士や左官、板金職人などの業界団体でつくる市耐震改修促進ネットワーク会議の主催。市によると市内の耐震化率は2015年度末現在で84・7%と



熊本地震の被害家屋の写真を見せながら建築士が耐震改修を呼び掛けたセミナー（京都市中京区・ゼスト御池）

度末現在で84・7%と

他都市より低く、古い木造住宅が多いのが特徴だという。

催しでは府建築士会

の理事や府建築士事務所協会の専務理事らが講演。熊本地震で被害を受けた家屋の写真を見せながら「京都でもいつ大きな地震が起こるか分からない」と話した。さらに「住宅が倒壊すると道路をふさぎ、避難の妨げにもなる。近所で声を掛け合

って耐震化を進めてほしい」と呼び掛けた。

家の上部を軽量化するための板金による屋根ふきの実演もあり、多くの市民が足を止め見入っていた。11日まで。

（浅井佳穂）